

イチゴのうどんこ病の防除について

本年は夏期が高温で推移し、育苗期間中のうどんこ病の発生は少なかったものの、定植後の発生が増加しています。冬期の発生量が多いと、春期の発生も多くなりますので、この時期の防除を徹底しましょう。

1. 発生状況

(1) 11月中旬の巡回調査では、発生圃場率、発病株率ともに、平年及び前年に比べ高くなっている。

発生圃場率 : 50.0% (平年: 19.9%、前年: 0%)

平均発病株率 : 12.8% (平年: 5.6%、前年: 0%)

(2) 本病の発生は気温20℃程度が最も好適で、平年では11月～12月に多発する傾向があり、今後も発生は継続するとみられる。

2. 防除上注意すべき事項

- (1) 発病すると防除が困難になるので、予防散布を徹底する。
- (2) 少しでも発生が認められる圃場は、治療効果のある薬剤を中心に通常より短い散布間隔で防除する。
- (3) 葉が混み合うと多発しやすくなるため、適正葉数の維持に努め、株整理後に薬剤散布を行うと葉裏にもかかりやすく効果的である。
- (4) 草勢が衰えたり、窒素過多になると多発しやすくなるため、適正な肥培管理に努める。
- (5) 発病葉は伝染源となるので、取り除き圃場外に埋めるなどして適切に処分する。
- (6) 防除薬剤は、大分県農林水産研究指導センター病虫害チームホームページ内にある「大分県主要農作物病虫害及び雑草防除指導指針」(下記アドレス)を参照し、農薬使用基準を遵守する。

(ホームページアドレス <http://www.jpnp.ne.jp/oita/>)

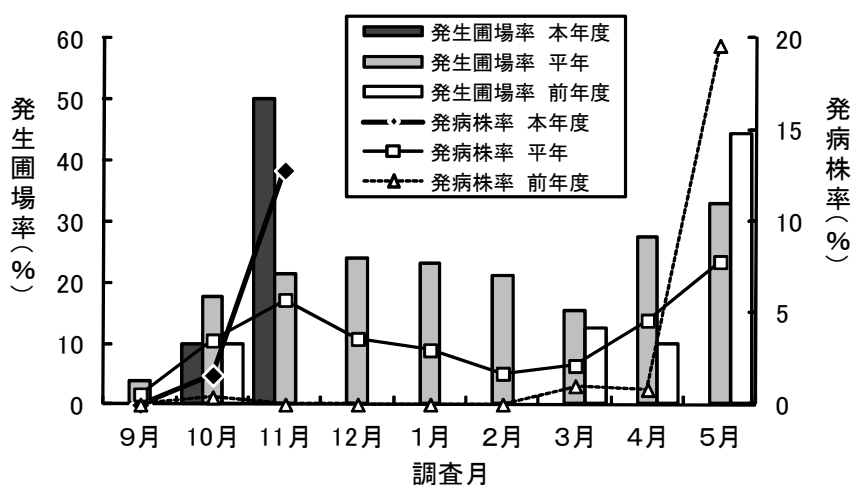


図1 イチゴ うどんこ病の発生推移